NAKAIKEMI・Harmony of Rural Nature and Human Life

ラムサール条約湿地
越前加賀海岸国定公園

中池見

人と自然のふれあいの里

春　一面に咲くサワオグルマ

利用のご案内

● **開園時間**
9：00～16：30

● **休 園 日**
・月曜日（休日の場合はその翌日）
・休日の翌日（その日が土曜日、日曜日または休日の場合は開園）
・12月29日～1月3日
・12月から翌年2月までは、ビジターセンターを休館としています。

● **交　　通**（藤ヶ丘駐車場まで）
JR敦賀駅より2km … 徒歩30分
北陸自動車道敦賀ICより2km … 乗用車5分

● **利用にあたってのお願い**
・動植物の採集・持込みはご遠慮ください。
・湿地内での火気使用、喫煙はご遠慮ください。
・ごみはお持ち帰りください。

お問い合わせ

中池見 人と自然のふれあいの里
914-0005　福井県敦賀市樫曲79号奥堀切
TEL　0770-20-1110　FAX　0770-20-1113

中池見湿地は、敦賀市街地の東部にある広さ25haほどの小さな湿地で、周りを天筒山・中山・深山の三つの山に囲まれた“隠し田”のような場所です。

2012年7月、中池見湿地は、敦賀の大切な宝として未来に手渡していきたいという市民の願いと努力が実り、ラムサール条約湿地に認定されました。

かつては、樹齢2000年を超える杉が生える沼地だった中池見湿地で、江戸時代に新田開発されてから400年近く、ほぼ全域で水田耕作が行われてきました。

しかし、1970年代に入り、軟弱地盤で深田と呼ばれる中池見では、大きな機械を入れられず、さらに減反政策が追い打ちをかけ、次第に水田は放棄されていきました。

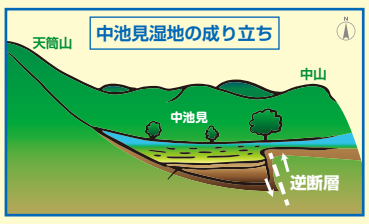
そのような中池見には、1980年以降、工業団地計画、そして、大阪ガスLNG基地計画が浮上しました。一時はほぼ全域が大阪ガスの所有となりましたが、その後、経済状況の変化などによりガス基地計画は中止となりました。2005年には大阪ガスが所有する施設および全域が敦賀市に寄付されました。

野や水辺に花が咲き、生き物の気配溢れる中池見湿地を、次の世代にも心なごむ自然とふれあえる場として、皆さんといっしょに守っていきたいと思っています。

●なんでラムサール条約湿地になれたの？

特異的な地形

今から約10万年以上前には、天筒山から東に向けて谷川が流れていました。



その頃初めて起きた断層運動で、ほぼ南北に走る活断層の東側ブロックが隆起して、そこで谷川の流れはせき止められ、水が溜まって池に、そして湿地ができました。

湿地には植物が生え、その植物が遺骸となって堆積し、泥炭層が形成されました。

その泥炭層が湿地を埋め尽くそうとした頃、再び断層運動がおき、できた新たな凹地が池になり、植物が生え、遺骸が堆積しました。こういうことを何度も繰り返すうちに湿地は広くなり、現在の中池見湿地ができたのです。

■ 袋状埋積谷（ふくろじょうまいせきこく）

袋状埋積谷とは、元々あった谷川の流れが、断層運動や山崩れ等で出来た天然ダムによって遮られ、上流側に溜まった土砂で広い平坦面を持つようになった谷のことを言います。中池見湿地は、この大変珍しい地形の典型的なものであり、埋積物の厚さは最も厚い場所で約80mあります。

天筒山より

世界屈指の厚さを誇る泥炭層

泥炭層とは、植物の遺骸がほぼ腐らずに炭化・堆積してできた地層のことです。その中の植物の花粉や種子、火山灰などによって、年代ごとの環境や気候の変化を知ることができます。約10万年の歴史を持つ中池見には、世界屈指の厚さ約40mもの泥炭層があり、中でも地表からの約27m（約5万年分）は、ほぼ連続する環境変動を記録した堆積物であり学術的価値の高いものです。

また湿地にとって、水は多すぎず少なすぎず、湿潤な環境のまま維持できることが大切です。泥炭は、いわばたくさんの水を含んだスポンジのようなものです。湿地の環境を調整し安定させる機能があり、水辺の植物や動物にとって暮らしやすい場所にしてくれています。

つまり、この厚い泥炭層は、中池見の生物多様性を支えてくれている、まさに縁の下の力持ちと言えます。

■ 泥炭と地球温暖化

泥炭層は大量の炭素を蓄積しています。その泥炭層が破壊され、泥炭の乾燥・分解が進むことは、大量の二酸化炭素を放出することになり、世界的にも大きな問題となっています。地球温暖化防止のためにも泥炭層を保存する事は大切なことなのです。

驚くべき生物の多様性

中池見湿地にとって水は命です。その水はすべて、周囲の山から供給されています。湧き水や山の表面を流れる水、またそれらが溜ったり流れたりと、水質も水量も違います。さらに田んぼのために入れたり抜いたりと、人の営みも加わった多様な水環境によって、中池見は多くの生き物を育んでいるのです。その数は約4000種。中には、福井県内で中池見にしか自生が確認されていないデンジソウをはじめ、ヤナギヌカボやミズトラノオ、など90種以上の絶滅を危惧される生き物たちが含まれています。

デンジソウ

ミズトラノオ

■ 渡り鳥ノジコ

ノジコは、日本でしか繁殖が確認されていない渡り鳥で、世界的に絶滅を危惧されている小鳥です。（国際自然保護連合の基準で絶滅危惧Ⅱ類）春から夏にかけて本州の主に中部以北で局地的に繁殖し、秋にはフィリピン北部などへ渡って越冬、春再び日本に戻ってきます。近年の調査で、多い年には1000羽以上のノジコが、秋の渡りの季節に中池見を利用していることがわかりました。これほどの数が記録されることは国内でも稀であることから、中池見がノジコの渡りの中継地として重要な場所であると認められました。